

平野壮弦《樹精 -Tree Spirit- 》2021 墨、画仙紙

平野壮弦 書芸展

— 書芸家への軌跡 —

2021年 8月6日(金)~9月26日(日)

■開館時間：9:30~17:00 (入館は16:30まで)

■休館日：火曜日

■入館料：一般500円、小・中学生200円、団体(20名以上)各50円引き ※身障者割引あり

同時
開催

館蔵刀剣展 古作を「写す」

星と森の詩美術館

〒948-0101 新潟県十日町市稲葉1099-1
TEL 025-752-7202 FAX 025-752-7203
<http://www.hoshi-uta-m.jp>



平野壮弦《大恩》1999 墨、画仙紙 《トラベシア》2010 墨、和紙

平野壮弦 書芸展

— 書芸家への軌跡 —

2021年 8月6日(金)~9月26日(日)

「書芸家とは、芸術としての書を志す者、すなわち『書芸術を通して宇宙の真理を探り表す者』の意である。」

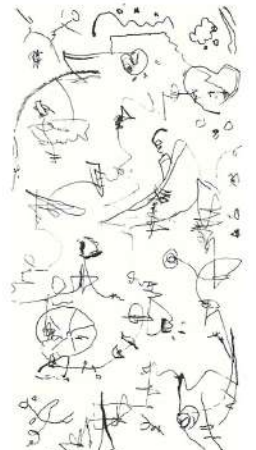
(『故郷〜魂のふるさとへの回帰 書芸家 壮弦ものがたり』より)

こう語る平野壮弦は、30歳で既存の書壇を離れ書芸家を志しました。10代から20代にかけてさまざまな師の恩恵を受け、また多くの先達との繋がりや積み重ねが、自身の進むべき方向への後押しとなったようです。

活動の場を東京にも広げ、広告デザインの分野をはじめ講演やアートパフォーマンス、なかでも和紙ドレスへの揮毫や着物生地への染め書きなど、書芸の可能性と人々を繋げる活動にも力を注ぎました。そして、世界的な書芸家として踏み出すきっかけとなったのが、2002年開催日韓ワールドカップの公式エンブレム並びに公式ポスターの筆書バージョンを手掛けたことであり、その後のグローバルな活躍に続いています。

現在でも、新潟県内を中心に中学校での講演、書芸パフォーマンスやワークショップも積極的に行い、書に親しみ楽しむ活動を世界中に発信し、さらなる繋がりを広げています。

「書芸の本質は生きた線にあり、伝統に学びつつも、人マネではない、自分自身の線、カタチ、色をもって、独自の世界を表していくことを最も重視している。」(前掲書)と語り、文字にこだわることなく、生命力のある線 — 生の線 — を表す、格闘の30年の軌跡をぜひご覧ください。



平野壮弦《無題》2012 墨、和紙

平野壮弦 (ひらの・そうげん)

- 1961 新潟県十日町市(旧川西町)に生まれる (本名: 治人)
- 1983 新潟大学教育学部英語科卒業 / 新潟県公立中学校の英語教師となる
- 1990 書壇院展にて書壇院賞受賞 (東京都美術館 / 東京)
- 1991 教職を辞し、書芸を志す
- 1992 個展『平野壮弦・カリグラフィー作品』開催 (らぶらす / 長岡市) 以降、新潟・東京を中心に開催
- 1994 国際デザインフェア長岡にて書芸アートパフォーマンスを行う (以降、各地で行う)
- 2000 《ベガスアートフォーラム地上展#5・世田谷美術館》出品 (世田谷美術館 / 東京)
- 2002 FIFA2002ワールドカップ公式ポスター・公式エンブレム筆書バージョンを揮毫 個展開催 (CAST IRON GALLERY / ニューヨーク)
- 2003 《ARTFOLIO地上展》出品 (世田谷美術館 / 東京)
- 2005 《ソウル書芸ビエンナーレ》招待出品 (韓国) 十日町市成人式にて講演、モデル着用の和紙ドレスへの揮毫パフォーマンスを行う
- 2006 著書『汚し屋壮弦 俺の書でイケ!』刊行 (天来書院) 『千年の森ホール』の綴帳作品(幅10m)を揮毫 (十日町市) 平成遺都1300年記念《書の未来展》招待出品 (奈良市美術館 / 奈良) 《台北国際現代書芸展》招待出品 (台湾)
- 2007 《韓中日2007書芸デザインワークショップINソウル》招待講演、パフォーマンスを行う (韓国) 新潟県中越地震復興支援イベント《SOGENゆかたファッションショー》開催
- 2009 『現代雪まつり発祥の地』記念モニュメント題字を揮毫 (十日町市) 《書×デザイン 挑戦の系譜展》出品 (志賀高原ロマン美術館 / 長野) 《書芸精神2009ソウル展》招待出品、ワークショップを行う (韓国書芸博物館) ワールドフェスタ・ヨコハマ《アジア民俗衣装ファッションショー》にて汚しアートパフォーマンスを行う
- 2010 《4人四色展》招待参加、パフォーマンス・セミナー併催 (ソウル美術館 / 韓国) ジョージア州立大学の招聘で、展覧会、パフォーマンス、レクチャーを行う (アメリカ) 《2010日川国際デザインフェア》特別展示・ワークショップ・講演を行う (韓国) コトブキ演奏者・斎藤徹氏と《音楽と書にあそぶ〜自然体験ワークショップ》開催 '12も開催
- 2012 《日韓書芸交流展》ならびに《韓国書芸交流ツアー》開催 (韓国)
- 2013 書と世界文化遺産・小千谷ちぢみとのコラボ企画に参加、東京イベントで公開
- 2014 園光大衆にて書芸科専攻生を対象に特別講演を行う (韓国) 苗場酒造観光蔵にSOGEN揮毫の「苗場山」書作品を常設展示 (津南町)
- 2015 日韓の作家によるグループ展・書芸交感展《葉月のゆらぎ》開催
- 2016 絵画と書芸によるアートワークショップ開催 (高砂児童館 / 東京都墨田区) 個展《ソウルドローイングズINソウル》開催 (恩平文化芸術会館 / 韓国)
- 2017 4人展《Logos -偶然の秩序-》開催、書芸アートワークショップ併催 (ソウル / 韓国)
- 2018 《ART SHODO TOKYO》に選抜出展 (三鷹市芸術文化センター / 東京)
- 2020 著書『故郷〜魂のふるさとへの回帰 書芸家 壮弦ものがたり』刊行 (滝沢印刷)

平野壮弦ギャラリートーク開催のご案内

- ① 8月7日(土) 14:00~
- ② 9月5日(日) 10:30~

いずれもご予約と入館料が必要です

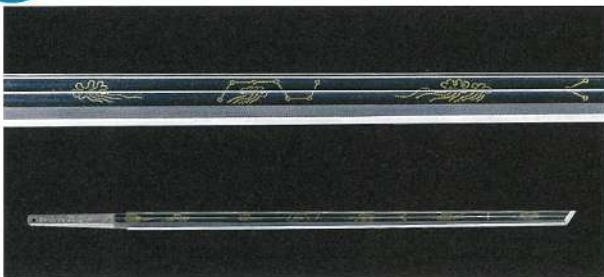
予約受付・お問合せ

星と森の詩美術館 電話 025-752-7202

※定員になり次第、予約受付を終了いたします

同時開催

館蔵刀剣展 古作を「写す」



大刀(直刀)《天田昭次作之/平成七年正月吉日》 [国宝《七星剣》写し]

工芸の世界においては古作を写す、いわゆる写し物を作ることは古くから行われています。それは、単にレプリカ(=複製品)を作るということではなく、写すことで時代を超えた先人の技や作風を学び、学んだものを自作に還元して、自身の作域を広げ、オリジナリティに奥行きを加えていくことに通じます。

現代の刀工もまた古作に学び、技術を、作風を深化させてきました。今展では、隅谷正峯(1921-98)、天田昭次(1927-2013)両人間国宝をはじめとする現代刀工が作った古作の写しと、各刀工の個性が光る作品をあわせて展覧いたします。

星と森の詩美術館

- ◇ 9:30~17:00開館 (入館は16:30まで)
- ◇ 火曜日休館
- ◇ 一般500円、小・中学生200円



〒948-0101新潟県十日町市稲葉1099-1 TEL 025-752-7202 FAX 025-752-7203 <http://www.hoshi-uta-m.jp>

[交通アクセス] ◆ JR飯山線・ほくほく線「十日町駅」より車で10分

- 関越自動車道「越後川口IC」より R117経由25分
- 北陸自動車道「柏崎IC」より R252経由50分
- 関越自動車道「六日町IC」より R253経由35分
- 北陸自動車道「上越IC」より R253経由70分

